



保二小だより

[1月号]

令和8年1月8日発行
西東京市立保谷第二小学校

アスリートの言葉から

校長 斉藤 境栄

新年、明けましておめでとうございます。保護者・地域の皆様におかれましては、清々しい新春をお迎えのことと思います。旧年中は、本校の教育活動に多大なるお力添えをいただき誠にありがとうございました。本年も変わらぬご支援・ご協力のほど、お願い申し上げます。

東京都では、平成28年度から令和3年度までの6年間、東京都オリンピック・パラリンピック教育を実施しました。2020年（令和2年）実施予定の東京オリンピック・パラリンピック（感染症のため2021年（令和3年）実施）に向けて、都内全公立学校で行われたものです。その取組の一つに、幼児・児童・生徒がアスリート等との直接交流を通じてスポーツの素晴らしさを実感し、夢や希望をもち続けることができるよう、オリンピックやパラリンピアン等を学校に派遣し、お話をうかがったり、共にスポーツを体験したりする「夢・未来プロジェクト」という取組がありました。その取組で、私が勤務していた小学校にアスリートが来校し、講演いただいた話を紹介します。

①女子ソフトボール選手（アテネ五輪銅メダル、北京五輪金メダル）

小学3年生の時に少年野球チームに入り、中学校でソフトボールに転向。高校、社会人チームでソフトボールを続け、日本代表に選ばれてアテネ五輪に出場し、銅メダルを獲得した。「次の北京では金メダル」を目指し、練習や試合に取り組んだ。その中で、「夢をもつこと」「あきらめないこと」を常に忘れずに取り組んだことが金メダルにつながった。

②陸上競技男子4×100mリレー選手（北京五輪銅メダル（後にジャマイカチームのドーピングが発覚し、銀メダルに））

小学3年生から陸上競技を始め、中学、高校、大学、社会人と陸上競技を続け、アジア大会などの大会で良い成績を残し、北京五輪の4×100mリレーの選手に選出される。競技に取り組んでいる中で、「夢をもつこと」「夢をいつまでに達成するかを決めること」「チャレンジすること」「できる範囲で精いっぱい努力すること」を心がけていたとのこと。

③陸上競技女子100m、走り幅跳びの選手（パラリンピック出場を目指すアスリート）

20代の時に駅のホームから線路に転落し、電車にひかれて右足を切断。入院しているしばらくの間はベッドの上で泣いてばかりだったけれど、自分と同じ境遇の方と仲良くなる中で陸上競技に出会い、競技を続けている。その中で、「目標をもつこと」「目標に向かってどう過ごすかを考えること」「あきらめずにチャレンジし続けること」を意識しているとのこと。

この3人に共通することは、「夢や目標をもつこと」「あきらめないでチャレンジすること」ではないかと思います。今年1年が始まったばかり。今年の目標は？これからかなえたい夢は？目標や夢の実現のためにどんなことにチャレンジする？あきらめずにチャレンジする子どもたちを大人がどう支援するかを常に考えていきたいものです。（子どもたちに負けずに、大人も目標や夢に向かってチャレンジしていきましょう。）